

令和6年度

全国学力・学習状況調査の結果と 学力向上の充実に向けて

清水町教育委員会

～全体的な傾向～

令和6年4月に実施した「全国学力・学習状況調査」の結果、教科に関する調査の平均正答率は、小学校では国語・算数が全道・全国平均を下回りました。中学校では国語において全道・全国平均を上回りました。数学においては、全国平均は若干下回ったものの全道平均とは同率でした。

学習状況調査における児童生徒質問調査で、小学校においては、規範意識や自己有用感、英語の関心について高い傾向が見られる一方、生活習慣・学習習慣、国語・算数・理科について低い回答傾向が見られました。中学校においては、生活・学習習慣が定着し、国語・数学・理科・英語の関心についてなど全体的に基準よりも高い回答傾向が見られました。また、普段の勉強からタブレットやスマートフォンなどのICT機器を活用して勉強を行っている傾向が見られました。

清水町では”しみず「教育の四季」”を実践指標として、学校、家庭、地域が織り交ざる中で心をかよわせ感性豊かな教育に取り組んでいます。調査結果で明らかになった課題を踏まえ、今後も各学校、家庭、地域において、子どもたちの学力向上のための効果的な取組を意欲的に充実させていくことが大切だと考えています。

学力 とは

基礎的な知識や技能を習得して、課題を解決するための思考力や判断力、表現力などの能力とともに、学ぶ意欲なども含めたものです。

三 つ の 柱

生きて働く「知識及び技能」

未知の状況にも対応できる
「思考力・判断力・表現力等」

学びを人生や社会に生かそうとする
「学びに向かう力、人間性等」

本調査は、「三つの柱は相互に関係しながら形成されるもの」という考え方のもと、一体的に調査問題を構成したものとなっており、実生活に必要な知識・技能や活用する力等の状況を把握するものです。

また、教科に関する調査のほかに、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面などを質問調査で聞きました。

令和6年度 全国学力・学習状況調査

【目的】

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

【調査対象】

○小学校6年生、中学校3年生（清水町は全小・中学校4校で実施）

【実施日】 令和6年4月18日（木）

【調査事項及び手法】

- 教科に関する調査 国語、算数・数学の2教科
- 質問調査 生活習慣や学習環境等に関する調査

小学校 6 年生 調査結果概要

教科に関する調査の結果

平均正答率は、国語・算数において、全国平均を下回りました。

◆小学校 6 年生調査問題の趣旨・内容

□国語

- 「書くこと」について、目的や意図に応じて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる問題
- 目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる問題など

□算数

- 図形や割合、データの活用などにおいて、過去の調査で課題が見られた内容の学習状況を確認する問題
- 立体図形について、図形を構成する要素などに着目し、図形の構成の仕方や図形の性質について考察できるかどうかを問う問題など

○町内小学校 6 年生の学力の傾向

国語・算数において、全国・全道を下回る平均正答率であり、課題が見られます。
2教科とも記述式問題の無回答率は改善傾向が見られます。

○課題と対応

国語において、日常的に読書に親しみ、読書が自分の考えを広げることに役立つことに気付くことに課題があると言えます。「読むこと」を重視した指導が必要です。

算数については、図形について基礎的・基本的な知識・技能は身に付いているが、深い理解を伴う知識の習得やその活用には課題があると言えます。

基礎的な知識・技能の学びを学校での学習だけでなく家庭学習においても日常的に深めていくこと、得た学びから考えたことを自分の言葉でまとめることを意識させる必要があります。

中学校 3 年生 調査結果概要

教科に関する調査の結果

平均正答率は、国語において、全道・全国平均を上回りました。

◆中学校 3 学年調査問題の趣旨・内容

□国語

- 話合いの話題や展開を捉えながら、他者の発言と結び付けて自分の考えをまとめることができるかどうかをみる問題など
- 言語活動の充実が図られている状況を踏まえ、話合いでの発言や文章から目的に応じて必要な情報を取り出したり、目的に応じて文章を工夫して書いたりすることができるかを問う問題

□数学

- 複数の集団のデータの分布の傾向を比較して読み取り、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる問題など
- 数学の学習過程において問題発見・解決する際の、ある局面に限定した問題

○町内中学校 3 年生の学力の傾向

国語において、全道・全国を上回る平均正答率であり、基礎的な知識・技能及びそれらを活用する思考力・判断力・表現力等が一定程度身に付いていると言えます。

数学の記述式問題で無回答率が若干高くなっている傾向が伺えます。

○課題と対応

国語において、目的や意図に応じて伝えたいことを明確にすることに課題があると言えます。

数学において、データの分布の傾向を比較して読み取ることに課題があると言えます。

家庭学習に取り組む中で、文章の意味を理解しながら読むことや物事を論理的に考えることを意識しながら取り組むことが必要です。

～調査結果から次のような指導改善の視点が明らかになりました～

◎小学校

国語

◇言葉の特徴や使い方などに着目して、文や文章を整える。

漢字を文の中で正しく使うことができるように指導することが大切です。その際、短時間でも継続的に指導したり、読みやすい文章にしたりすることを意識し、推敲する必要性を感じることができるようにすることが重要です。

また、文の中における主語と述語との関係を捉えることが大切です。
ICT 機器等も活用し、普段の授業から働きかけることが大切です。

◇登場人物の相互関係や心情について、描写を基に捉える。

心情は直接的に描写されている場合もあるが、登場人物の相互関係に基づいた行動や会話、情景などを通して暗示的に表現されている場面もあるため、表現の仕方にも着目することと複数の描写を結び付けて捉えられるよう、ある程度の量の文を読む力が大切です。

また、関係を様々な方法で整理することで、考えをより明確なものにしたり、思考をまとめたりできることを実感できるように指導することも大切です。

★各家庭での実践

本や新聞などの文章を読み、自分の考えをまとめ、タブレット等を用いて友人などと共有して、良いところやもっと工夫できるところを伝え合うことが大切です。

算数

◇図形を構成する要素やそれらの位置関係に着目し、図形の構成の仕方や図形の性質について考察し、捉える。

図形の学習では、観察や構成などの活動を通して、筋道を立てて考察することで、実感を伴いながら図形についての理解を深めることが重要です。例えば、構成要素である面と面、辺と辺等の位置関係に着目しながら立体図形を見取図や展開図で表したり、その逆の道順を構成したりできるように指導することが大切です。

◇日常の事象を数理的に捉え、数学的に表現・処理する。

異種の二つの量の割合として捉えられる数量の関係について考察し、日常生活の問題を解決するために、場面を解釈して、問題の解決方法を式や言葉を用いて説明できるように指導することが重要です。例えば、速さの学習においては、速さと道のり・時間の関係に気付いたり、単位量当たりの大きさが平均の考えを前提にしていることに気付いたりすることができるようになることが大切です。

★各家庭での実践

家庭での買い物や料理など日常生活の中で、身近にある数量に目を向けて概数の計算や割合の変化を捉えられるように、保護者が児童に対して、積極的に問いかけて考えさせることも大切です。

◎中学校

国語

◇自分の考えが分かりやすく伝わるように話すことを考える。

話し合いの中で、話題を意識しながら経過を捉えて話したり聞いたりすることや、話し合いの展開に応じて、互いの発言を結び付け、話し合った内容を踏まえて自分の考えをまとめられるようにすることが大切です。

また、自分の考えが話し合いの話題や発言の内容とどのように結び付いているのか、つながりが分かるようにまとめることも重要です。

◇目的に応じた内容や、伝わる文章になるように工夫する。

自分の考えが伝わる文章になるように、表現の効果を考えて描写を工夫して書けるように指導することが大切です。

物語を搜索する際には、目的や意図に応じて題材を決め、伝えたいことを考えながら書くための材料を集めることが大切です。それらを取捨選択したり関係付けをしてまとめたりするなど整理することが重要です。

★各家庭での実践

・日頃から新聞や本などを読むことによって、文章の構成や引用の仕方を学んだり、心情を表す言葉や情景を表す言葉など、より多くの言葉を学んだりすることが大切です。

ただ、読むだけでなく、読み解いて理解を深める中で自分の考えをまとめられるようにしていくことが重要です。

数学

◇事象に即して解釈したことを数学的に表現することができる。

確率を用いて不確定な事象を捉え考察する場面においては、筋道を立てて考えたり、簡単な場合について、確率を求めることができることが大切です。

また、同様に確からしいことに着目し、起こり得る場合の数を基にして求めることが大切です。

◇データの傾向を読み取り、批判的に考察し判断することができる。

不確定な事象についてデータに基づいて考察する場面において、「表やグラフなどを活用して、数学的に処理することができるかどうか」、「事象を数学的に解釈し、その根拠を数学的な表現を用いて説明することができるかどうか」、「数学的に表現したことを事象に即して解釈することができるかどうか」が大切です。

また、「四分位範囲」など用語の理解に課題がある場合も考えられるので、基礎的な用語の理解も大切になってきます。

★各家庭での実践

・家庭学習の中で、理論的に問題を考察し、自分の言葉で説明できるように取り組むことやICT機器等を使って他者と色々な考えを共有し理解を深めることが大切です。

質問調査 の結果

小学生は、自己有用感が全国・全道平均を上回りましたが、生活習慣・国語・算数・理科への関心が特に全国平均を下回りました。中学生は生活習慣・学習習慣、国語・数学・理科・英語への関心などの項目で全国平均を上回りました。

◆質問調査の趣旨・内容

学力の状況のみならず、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面に関する質問調査を実施し、学力と相関関係等を分析します。学力との相関については、①学習に対する興味・関心、②規範意識・自己有用感、③学習の基盤となる生活・学習習慣について調査が行われました。

○市内の児童生徒の学習習慣や生活習慣等の傾向

小学校6学年児童では、全国基準と比べて、「友達関係に満足している」「学校に行くことは楽しい」について高い傾向にありました。

中学校3学年生徒では、全国基準と比べて、「将来の夢や目標を持っている」「自分にはよいところがある」「人が困っているときは進んで助ける」などについて高い傾向にありました。

改善の 方向性

○「三つの柱」を育成していくことを重視し、確かな学力を確立するための学習活動を充実させましょう。

～知識・技能の確実な定着を図る指導の工夫改善に努めましょう～

- ・基礎的・基本的な知識・技能を確実に定着させるため、体験的な理解を重視した学習活動や、「まとめ」「振り返り」など学びをフィードバックさせる学習指導の工夫改善を図る。
- ・一人一人の習熟度等に応じたきめ細かな指導を一層充実させる。

～思考力、判断力、表現力等を高める指導を充実し、実際に課題を探究する活動の実践に努めましょう～

- ・観察・実験、レポートの作成、論述などの学習活動を発達段階に応じて充実させ、自分の考えを持ち、伝わりやすい言葉で文章を作る能力を向上させる。

○「主体的・対話的で深い学び」から学習意欲の向上につながる指導の工夫改善に努めましょう。

- ・児童生徒の学習意欲を高める「分かる授業」「自ら考える授業」の実践研究を推進し、児童生徒の自立性を促すことができるよう教師の授業力を高める。
- ・タブレット等のICT機器を活用し、児童生徒一人ひとりの学習場面が多様なものとなるように指導方法の充実を図る。
- ・地域の人材や加配教員による少人数指導、チーム・ティーチングや習熟度別指導など多様な指導によって児童生徒の学びを充実させる。

○家庭・学校・地域が相互に連携し、学習習慣や基本的な生活習慣の育成を図るための活動を充実させましょう。

- ・家庭においても日常生活の事象や体験から学びへと結びつけられるように疑問に対する興味関心を育てていく。
- ・子どもが自発的に学習を行えるように支援したり、規則正しい生活リズムの中で学習時間を確保したりなど、各家庭が意識をもって取り組む。

○読書に対する意欲を高め、読書活動を活発にする取組の一層の充実を図りましょう。

- ・全校一斉の読書活動、学校図書館の活用を通じて、文章の読解力を向上させる。
- ・毎月19日の「しみず読書の日」を意識して、読書の習慣化を図る。

清水町教育研究所との連携

調査の結果を受けて、清水町教育研究所では十勝教育研究所と連携し、教育課程や授業の工夫改善、家庭学習の推進に取り組んでいます。研究所の研究成果を参考に、各学校において日頃より実践研究に取り組むなど連携を図りながら、児童生徒の確かな学力の育成に努めます。